

印刷物

冊子などの表紙は以下のガイドラインに沿ってデザインすることで、全体としての統一感を生み出します。

印刷物デザインガイドライン

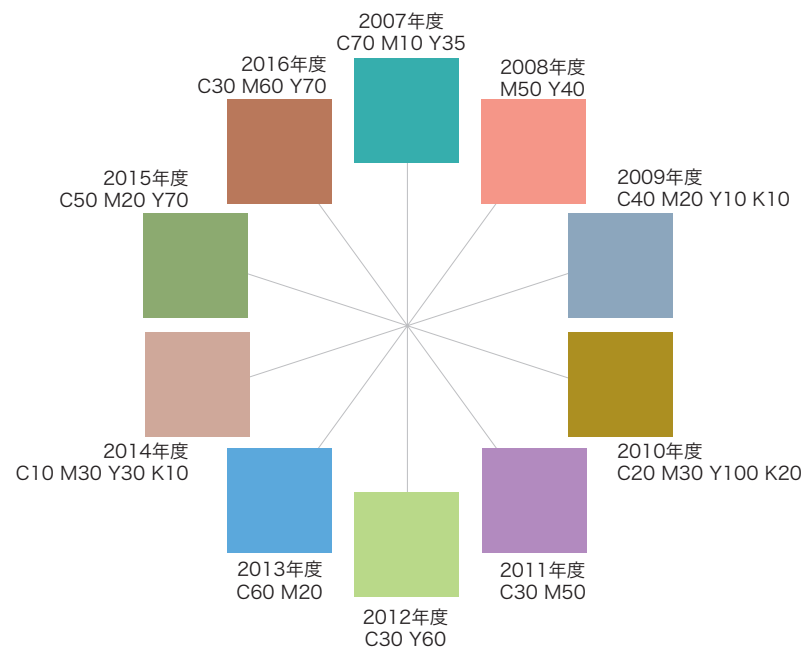
フォーマルとフレキシブル

本文内容によってきちんとした印象が望ましい場合には「フォーマル」、表紙に自由度を持たせ、読者に親近感を与えたい場合には「フレキシブル」のガイドラインに従ってデザインすると良いでしょう。これらのガイドラインは最小限必要なルールを示していますので、事例を参考に自由にデザインを楽しんでください。

	フォーマル	フレキシブル
UI カラーの色面	多い (40% 程度以上)	少ない (40% 程度以下)
シンボルロゴの タイプ	天地タイプの 使用が望ましい	左右タイプの 使用が望ましい
年度カラー	表紙、背表紙に目立つように 配置する事が望ましい	

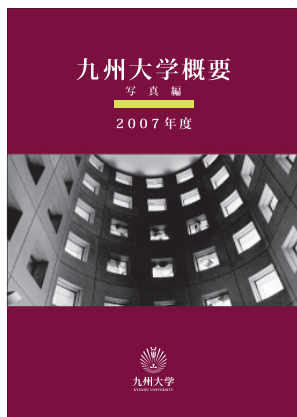
年度カラー

年度毎にテーマカラーを選定しています。これらのカラーを効果的に使用する事によって、より統一感のあるデザインができます。



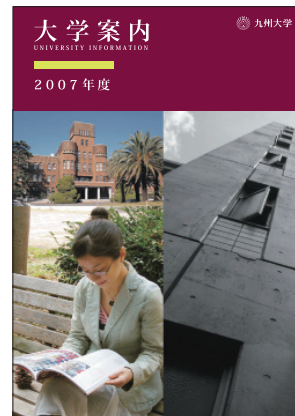
大学概要

全面にUIカラーを配し、和英・天地タイプのシンボルロゴを使用したフォーマルな印象を与えるデザイン。対で発行される印刷物であるため、2冊に統一感を持たせた。



大学案内

UIカラーは紙面の4割以下に抑え、シンボルロゴも左右タイプを使用。レイアウトの自由度を確保しつつ九州大学のアイデンティティも強調できる。



紀要

定期刊行物には年度カラー（例では緑）を用いると効果的。また、UIカラーを使用しない場合でも、天地タイプのシンボルロゴによりフォーマルなデザインができる。

KYUSHU UNIVERSITY ENGINEERING SCIENCES REPORTS vol.27 No.2	〒800 九州大学 総合理工学 部 紀要 第27巻 第2号 2007.4	九州大学大学院 総合理工学報告 第27巻 第2号 ISSN 1346-7863
219 Fast Propagation and Slope Control of Molecular Nanostuctures by Using Microwave Heating	219 ○○○○を用いた○○○材料の○○○○○○○○	219
228 Ocean Model using Cut-Cell Method	228 ○○○を用いた○○○モデルについて	228
241 Numerical Study on Relationship between Long term variation of Asian Dust Storm and Chemical Ionizer	241 ○○○○現象と○○○粒子との関連性についての○○○研究	241
251 Formation of convergent dust band over western Japan Sea in winter - Numerical experiments on frontal structure in the convergent dust band -	251 ○○○○に集まり、○○○○の形成 -○○○○に見られる○○○構造についての○○○実験-	251
257	257 学位論文要旨報告	257
INTERDISCIPLINARY GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING SCIENCES 2007.4	九州大学大学院総合理工学部 2007.4	九州大学

学生生活案内

学生が親しみを感じるように自由なレイアウトを採用。年度カラーやUIカラーをキーカラーとして用いることで、全体的に統一感のあるデザインができる。

